

## コラム：社会階層は人間関係の格差をうみだすのか？

学歴・職業・所得といった階層的地位は、人びとの人間関係の大きさ（親しい親族数、仕事仲間数、隣人数、友人数）にどのような影響をもたらしているのでしょうか。一都三県にお住いの25歳以上の男女4,676人から得られた調査の結果をご紹介します。

学歴の効果をみると、男女ともに、高校卒・大学卒の人の方が、親族でも仕事仲間でも隣人でもない友人数が多い。つまり高学歴の人ほど、出会いの「機会」が多く、「社交」能力が高いため、幅広い交友関係を築いていると言えそうです。

職業については、男女ともに専門・管理職の人ほど仕事仲間数が多い。さらに専門・管理職の女性は、隣人数は少ないが、友人数が多い。専門・管理職の人は、その他の職種に比べて仕事を通じた交際の機会が多く、そこで構築されたネットワークは自らのキャリア形成（転職や昇進）においてもプラスに働くのではないのでしょうか。

所得の効果は、とくに男性で顕著で、所得が高い人ほど、親族数と仕事仲間数が多いことがわかります。飲みに行くとか、スポーツをすとかいったありふれた事柄においても、どのくらい頻繁におこなうのかは彼らが利用可能な資源に左右されるのかもしれませんが。

表：階層的地位と領域別ネットワークとの関連

	男性				女性			
	親族数	仕事仲間数	隣人数	友人数	親族数	仕事仲間数	隣人数	友人数
学歴	中学卒（基準）							
				↑			↑	↑
				↑				↑
職業	マニュアル職（基準）							
（現職）		↑			↑	↓		↑
						↓		
					↑			
		↓			↓			↑
等価所得	200万未満（基準）							
	↑	↑						
	↑	↑						
	↑	↑				↑		

注）年齢、配偶者の有無、出身地、居住年数の影響を統制した重回帰分析の結果。矢印は回帰係数の向きを示す。

出典：原田謙（2012）「社会階層とパーソナル・ネットワーク：学歴・職業・所得による格差と性差」『医療と社会』22(1): 57-67.